

東京サミットを粉碎せよ！

狭山早期再審請求却下策動粉碎！

元号法制化阻止！

● 東京サミット粉碎講演集会・デモに結集せよ！
主催 三里塚闘争支援労働者青年共闘会議 日時 六月二十八・二十九日 場所 未定

全国水平社十回大会



労働者・農民・学生・市民のみなさん／読者のみなさん／

現在の情勢の特徴は、米帝等国際帝国主義が結託し、エジプト・イスラエルの「エセ」中東平和条約を、その橋頭歩にし、第三世界一反霸権・民主主義・社会主義の戦いに再度の大々的なまきかえしを强行せんとしているということです。78年～79年にかけて、中東一イラン革命の勝利、米中国交樹立、ベトナムのカンボジア侵略、中一越戦争等、帝・社帝・反帝反社帝プロ独派の三つ巴え戦が激化する中、米帝は、再度対ソ主敵の第三世界妥協有和路線へと転換し、ある程度の政治的安定局面をつくりだした。このような中で「エセ」中東平和条約から、東京ラウンドの結着、日米首脳会議・IEA閣僚会議・日-ECA定期協議会等この間の一連の政治・軍事・経済会議でもって、米帝の枢軸性の後退と西独帝・日帝の実力をそれ相応に承認しつつ、再度米帝の下に、帝間の矛盾を調整し一二流帝である日帝・西独帝に犠牲を転嫁しつつ、結局は中東・エネルギー問題を軸にして、第三世界・中東への再度の大々的な共同したまきかえし一侵略反革命戦争策動をはからんとしているのだ。東京サミットこそ、この動向の集約点であり、国際的な大陰謀会議である。

大平一日本資本主義は、現在の体制的危機を、このような米帝などの国際的な動向に照応しつつ日本資本主義を再編強化し、「韓国」-ASEANへの勢力圏化一侵略反革命戦争体制を強化し、国内においては社帝・自由主義ブルを左足とする、なし崩し天父の布陣形成をてことして、産業構造の再編一官商獨化で大々的に労働者人民に犠牲転嫁しつつ乗り切ろうとしている。元号法制化・有事立法一防衛論議をめぐる政治、軍事動向、79年度予算、一般消費税導入一公定歩合の引き上げ等経済的動向、79春闘一統一地方選の資本側の圧勝、狭山再審却下策動・三里塚二期工事着工策動・沖縄ICTS建設強行策動・全通への大量処分攻撃・カクマル・民同を使った勤労・本山への組織破壊攻撃・山谷春闘への様々なの攬乱策動等、これら一連の動向は、この本質のあらわれである。

だが同時に、このような国際帝国主義の動向は対抗的に不可避に中國一第三世界人民の反霸権反帝反植民地を高揚させ、これと一体にUNCTAD等を戦場として、ハ一次産品問題を軸に、ソシ帝なども批判しつつ経済的自立の要求闘争が前進し、そしてこれとの内に深く連動した、帝国主義心臓部一とりわけ日本やEC諸国に、プロレタリア独裁一社会主義革命、第二次前段決戦の情勢の高揚を促がしている。

今号において我々は東京サミットと、それに向かう五月～六月の、国際帝国主義、日本資本主義の階級的、政治的性格について分析、暴露しています。このような分析を踏え、わが同盟は、新旧社会帝国主義の解体、攬乱に反対しつつ、天皇制アジズム一朝（一ア）侵略反革命戦争のあらゆる策動に反対する政治闘争に決起する。同時に79春闘一労働戦線においても、総評民同の天皇愛國労働運動に反対し、山谷春闘など、八〇年代に向けて革命的労働運動形成のために戦うものです。

そして、一切の要に、反帝反社帝プロ独社会主義革命の綱領の下にプロレタリア单一党建設の戦い、反帝反アシズム社会主義統一戦線をつくる戦いがあります。

広範な労働者、農民、市民、学生のみなさんがわが同盟と共に決起されることを訴えます。

赤

共産主義者同盟赤軍派
中央政治機関紙

再刊準備第39号
1979年5月15日発行

月刊 (毎月1回発行)
定価 200円
定期購読密封一年分(手取)3600円

発行所 燐原社
東京都北区豊島2-15-1
岡田ビル201号

広瀬進
03-912-8481
東京都荒川区荒川郵便局
私書箱17号

資本主義私的所有一賃金奴隸制廃絶！
朝鮮侵略反革命戦争一天皇制アシズム権力再編に反対し、社会主義を実現する革命的大衆行動で、武装蜂起一臨争に対峙せよ！
霸権闘争に連帯し、ソ米霸権争奪・戦争に對峙せよ！

共産主義者同盟
赤軍派(フロ革)

日米首脳会談——力一タ一戦略の下、国際帝まき返しの重大な一環を狙い、朝鮮・アジア侵略反革命戦争策動に乗りだした大平政権

一七七年後半～七八年にかけての国际帝国主義の中国・第三世界に対する侵略反革命戦争策動に対し、中国は第三世界の反帝反植反霸権闘争に依拠し、これを阻止、押しとどめ対ソ主敵で妥協させ、日中条約、中米国交樹立で連合し、最も危険な戦争策源地ソシ帝の霸権争奪に打撃を与えた。この国际的条件の下で米帝、ソシ帝の介入を阻止し、反霸権民族民主主義のイラン革命が勝利した。イラン革命の勝利に続きペレスチナ、アラブ民族民主主義・社会主義革命の昂揚、OPECによる石油値上げ攻勢、中国のベトナム地域霸権主義に対する自衛反撃戦争の勝利ーカンボジア人民の反ベトナム救国戦争の前進、朝鮮民主主義人民共和国の南北対話平和攻勢ー「韓国」人民民主主義革命の昂揚等、中国、第三世界の反霸権闘争は大きく前進した。

イラン革命の勝利は、カーターのドルたれ流しーインフレ政策による中東石油の安価で大量の収奪による世界的景気浮揚政策を破綻

こみ、漁夫の利をえんと策動しだした。米帝カーテーは、これに対しソ・社帝を排除し、パレスチナ・アラブ民族民主主義革命の昇揚を圧殺し、サウジアラビア等保守王政派を引きつけ、石油権益を確保する為に、国際帝国主義の全力量を動員し共同の侵略反革命戦争策動を強化し、中東「平和」体制を定着させんとしている。カーテーは、北イエメンへ武器援助や軍事顧問団を送り、又第七艦隊空母を派遣し、第五艦隊構想を打ちあげたりして軍事力を誇示し、そしてエジプトを新たなペルシャ湾の警察とさせるべく軍事援助を行い、破綻した経済テコ入れの為、百々五〇億ドルの援助を日帝、西独帝を動員して行い、再度、中東を国際帝国主義の犠牲的基底へ組みこみ、安価で大量の石油を搾取、収奪せんとしているのだ。

体制を構築してゆくことを表明した。大平は、
又、「日本も持てる力を十分に認識し、対米
関係だけでなく世界におけるそれなりの責任
と役割を果たす」とカーラーの中東「平和」
Ⅱ共同の侵略反革命戦争策動による国際帝国
主義のまき返しの重大な一環をは担うことを、
エジプト、トルコへの経済的援助をすること
により表明した。

五大平は、「日米經濟磨擦」の解決には、
①内需の拡大②市場の解放によって黒字減ら
しを行う、又「目標達成には数年間を必要」
として「次官級の協議機関」「賢人會議」に
よる「産業構造の調整」を表明している。こ
れは、対米輸出を抑制し、米帝を補完し第三
世界を国際帝国主義につなぎとめておくため
に政府開発援助等の経済援助を増大させ、東
京ラウンドの関税引き下げを繰り上げ実施し
たり、農産物輸入自由化を促進するなど米帝
の犠牲転嫁を受け入れることである。そして
大平政権は、米帝のエゴを第三世界に転嫁せ
んとするのだが、第三世界の反霸權闘争の前
進によつてそれを阻まれている。それ故大平
政権は、第三世界総体には妥協、宥和しつつ、
自己の既存の勢力圏たる「韓」国、台湾、イ
ンドネシア、タイ、フィリピン等には一層、

二、米帝カーターは、対ソ主敵・中国第三世界妥協、宥和戦略によるまき返しを、中東「平和」条約¹¹ 国際帝国主義を動員した中東への共同侵略反革命戦争体制の構築をテコに策動はじめた。

国際帝国主義にとって第一のエネルギー資源である石油の「安定供給」が世界的景気浮揚の鍵であり、又石油価格の高騰が他の原料資源の第三世界による値上げ要求に波及することを恐れるが故に、カーターは中東「平和」反革命体制の構築に全力量を注ぎこんだ。しかしこれは火に油を注ぐ結果となつた。ペレスチナ民族の自決権をふみにじり、占領されたアラブ諸国の領土奪還を放棄した条約を締結したエジプトに対する PLO、PFLP やイランを先頭とする全アラブ諸国による制裁決議、OPEC による九・〇五% 値上げ攻勢、そしてこの決議にサウジアラビアやヨルダン、アラブ首長国連邦が反対できず、動搖し、米帝難船をおこしてゐる。そしてソシ帝

国際帝國主義体制の存立そのものをおびやかすが故にとることができない。それ故、カーターは米帝が輸出の障害となつてると考える非関税障壁の撤廃に重点をおいた東京ラウンド締結により、保護主義ブロック化の抬頭の中、世界統一市場を解体的に維持しつつ日帝や日独帝に「輸出主導型の産業構造」の調整を要求し、「輸出抑制」「内需拡大」への転換を迫りだした。そして米帝と第二次世界の帝国主義との不均等発展矛盾の最大のものとしての「日米経済磨擦」を、日帝の犠牲によつて妥協、調停し、六月東京サミットを準備するものとして大平訪米・日米首脳会談が行なわれた。

を倒産させ、独占の一層の高度化、国家官僚
独占資本主義化をおしすすめる。又大平は、
電電公社政府調達問題にみられる様に、先端
エレクトロニクス分野のコンピュータ、通
信機等は米帝にゆずりわたさず、産業構造再
編の要としつつ、大独占奉仕一景気維持刺激
を大量の赤字国債で行う79年度予算に見られ
る様に、一層大衆収奪一インフレを強め、一
般消費税導入による大増税により労働者、人
民を貧困化させてゆく。

今回の日米首脳会談で、大平政権は、米帝
カーネギーの対ソ主敵中国第三世界妥協宥和戦
略の下、「応能の分担」として米帝を政治、
軍事、経済的に補完し、中東に対する共同侵
略反革命戦争策動の重大な一環を担い、又米
帝のエゴを国内プロ人民や既存の勢力圏に転
嫁し、より一層濃密に搾取、収奪し、朝鮮一
アジア侵略反革命戦争体制を構築してゆくこ
とを鮮明にしたのだ。

一 國連貿易開発会議・第五回総会がマニラで開かれている。この総会で第三世界は団結して「一次產品共通基金」を始めとする要求を國際帝につきつけている。第三世界は戦後米帝一元体制の下に、國際帝国主義の犠牲的基底として、資源、燃料、農産物を大量に安価に不等価交換されてきた。しかし中国を後方とするペトナム・インドシナ革命戦争の勝利による米帝一元体制の解体を牽引力に、第三世界は、O P E C による石油値上げを筆頭に、他の原料資源の価格値上げ、国有化を要求し、経済的権益を擁護する為に立ち上がりた。それは七四年四月の国連資源特別総会で天然資源と全經濟活動に対する恒久主権等を要求し、「新國際經濟秩序宣言」を決議し、その具体化として、「一次產品共通基金」の設立を七六年第四回ナイロビ総会で要求し、

国際帝国主義と激しく対立した。第三世界は石油の値上げ以外の他の一次産品の値上げを要求が敗北する中で、一次産品を18品目一括り六〇億ドルの基金を帝国主義に出資させ、高価格での安定をはからんとした。国際帝国主義は、金額をおさえ品目をしぶり、この要求を圧殺せんとしたが第三世界の反霸権闘争の前進の前に七億五千万ドル程度で妥協せんとしている。国際帝国主義は又第三世界の他の要求についても妥協し自己の勢力圏へつなぎとめんと画策している。

第三世界は米帝の後退について全世界的に霸権争奪を求めるソcial帝にも警戒心を高め、一部をのぞく諸国は一致して民主カンボジア政府を非同盟会議代表団として認め、ベトナムのかいらい政権＝ヘン・サムリン政権への批判を強めている。

三世界に妥協有和し、政府開発援助を三年倍増する、一次産品共通基金設立に貢献する、人づくりに貢献するとか言い、国際帝の勢力圏へつなぎとめんとする。そして大平は、「韓」国・ASEAN・豪州・ニュージーランド・太平洋地域をなしくずし的に自己の勢力圏とし、「アジアの代表」とかいつて、サミットで、他帝にこれを認めさせんとしている。しかし第三世界総体に対する妥協有和は、既存の勢力圏に対しては一層濃密な搾取、収奪にかり立てる。

三 しかしどんな奸計や奇策を用いて第三世界に妥協有和しようとも、国際帝は第三世界を国際帝の犠牲的基底へと組みこまざるをえないし、とりわけ自己の既存の勢力圏にはより一層、濃密な搾取、収奪をやる。それ故、第三世界における反帝反植反霸権闘争は不可

元号法制化―東京サミット粉碎 五一六月闘争と我々の任務

一大平の元号法制化攻撃を頂点とする政治的経済的攻撃・前段階反革命が東京サミットへ向けて一層強化されてきている。日「共」協会、カクマル、第四インターの新旧社帝潮流による革命的大衆に対する背後からの解体攬乱攻撃が一体的に強化されてきている。

二以上の階級・党派関係を踏え、我々は五六月闘争に決起してゆかなければならぬ。我々は、元号法制化・東京サミット粉碎を軸に三里塚二期工事着工策動、狹山再審却下策動、全通大量処分、国鉄運賃値上げ、タバコ代値上げ、一般消費税導入に反対し、広範な民主主義勢力を引きつけた「天ファ」に反対し社会主義を実現する「革命的大衆運動の連合」で正規の攻団を組織してゆく。

新旧社帝潮流の革命的大衆行動に対する背後から解体策動に反社帝内戦の布陣を堅持し、しかし彼らが天ファに反対する限り、あらゆる正規の攻団を組織してゆく。

社会主義統一戦を発展させてゆく。その中核としての三支共闘を打ちきたえる。

二七九春闘を、最低賃金十三万六千四〇円に三里塚二期工事着工策動、狹山再審却下策動、全通大量処分、国鉄運賃値上げ、タバコ代値上げ、一般消費税導入に反対し、広範な民主主義勢力を引きつけた「天ファ」に反対し社会主義を実現する「革命的大衆運動の連合」で正規の攻団を組織してゆく。

新旧社帝潮流の革命的大衆行動に対する背後から解体策動に反社帝内戦の布陣を堅持し、しかし彼らが天ファに反対する限り、あらゆる正規の攻団を組織してゆく。

生命生活と権利を守る山統労の戦いや中小零細末組織労働者の賃上げ、首切り合理化反対の要求を掲げ山谷労働者の、差別に反対し、の闘いを支持し共に闘いぬく。

○○の固い団結によって粉碎された。我々は動労千葉に対する組織破壊攻撃を唯一七九春闘の方針にした動労カクマルの四月二八日(五月一日)の暴力破壊オルグは、動労千葉一四〇〇の闘いを支持し団結し動労動労千葉に對する組織破壊攻撃を唯一七九春闘の方針にした動労カクマルの四月二八日(五月一日)の暴力破壊オルグは、動労千葉一四〇〇の闘いを支持し団結し動労動労千葉一四〇〇の闘いを支持し団結し動労カクマルによる破壊攻撃から防衛してゆく。

全金宮城地本による本山支部破壊除名権利停止攻撃に対し、四月二十二日、本山支部の臨時大会が勝ちとられ、より一層、団結が打ち固められた。我々は、「一人の首切りも

許さない」労働者魂で九年間闘いぬいて来た本山支部を民同の組織破壊攻撃から防衛し、勝利に向けて固く団結してゆく。

郵政省一全通民同一体となつた大量処分攻撃に対し、処分粉碎、反マル生闘争を支援し闘いぬく。

我々は、動労千葉、全金本山、山統労を始めとする革命的労働運動の大連合でもつて、総評民同、社帝による「天皇と愛國の労働運動」大連合への大きな転換を粉碎し、日本労働運動の革命的再生をかちとつてゆく。

全国政治新聞発刊を軸に地区党建設を強化する。天ファ主要打撃の下で反社帝内戦の布陣を堅持し、反スタトロッキズム・毛教条同時相互止揚の四面党派闘争をおしすすめ、プロ一組織破壊攻撃の強化に對し、非合法中央集権党建設で対峙し中央軍中軸の三種の建軍運動の革命的再生をかちとつてゆく。

三、我々は、大平の東京サミット戒厳令体制の確立と失継早やに、成田用水一農業振興策を打ち出し

開所式が行なわれた。他方で、千葉花見川ルートバイブライン敷設工事を開始した。また財特法

期工事着工へ向けれ布石なのだ。

だが、三里塚反対同盟は用地内

十七戸を先頭として固く団結し闘

い抜いている。ボロシル四散布によ

る急きよ駆けつけ、これを阻止し、

農興センター開所式にはムシロ旗

を立てて押しかけた。そして、セ

ンター側へ二期工事との関連性を

ござりません。

この勝利は公團による市議会丸

て闘い抜いた成田市議選は、前回

より三百票以上も票を延ばして十

七位(定員三〇)で再選を勝ち取

った。

また、北原事務局長を候補とし

て闘い抜いた成田市議選は、前回

より三百票以上も票を延ばして十

七位(定員三〇)で再選を勝ち取

った。

この勝利は公團による市議会丸

て闘い抜いた成田市議選は、前回

より三百票以上も票を延ばして十

進行し、その解体を、「80年代型の労働運動の創出」と強弁するにいたつては「恥も外聞もなく」みえだけは張りたい為の弁解以外の何者でもない。

四・一七反革命襲撃糾弾！

革命的大衆行動の大連合で動労千葉を防衛せよ！

四月十七日、動労カクマルは、「再建」オルグと称し、学生カクマル先頭に、手に手に青竹やバーナー、かけや等を持って闘う動労千葉津田沼支部を襲撃し、役員にテロ・リンチを加え、片岡支部長へ頭蓋骨骨折の重傷を負わせるという反革命襲撃を行なつた。

5/6 暴力破壊オルグ粉碎

更に、四月二八日～五月一日にかけて、動労カクマルは全国動員をかけ、千数百名による暴力破壊オルグをかけてきた。そして、連日、銃子、佐倉、勝浦、千葉運輸区等へ押しかけ、夜は組合員宅をまわって個別どう喝を加え、何としても五月一日「再建準備」大会へ向けて動労千葉を圧殺せんと、最後のあがきを繰り返したのだ。

だが、動労カクマルの反革命敵対は、動労千葉一四〇〇を先頭に、ジェット闘争支援共闘会議をはじめとする山統労等革命的労働者人

民によって完全に粉砕された！
動労千葉は一八日津田沼、一九日館山、二一日新小岩、二四日千葉運輸区、二五日木更津、二六日勝浦、二七日幕張と次々に新生動労千葉の各支部を結成して、暴力破壊オルグを迎撃し、真向から対峙し、動労カクマルを千葉よりたたき出した。

反撃する動労千葉

二九日には、部落解放同盟千葉県連との共同闘争として狹山差別裁判糾弾、再審早期棄却粉碎の集会を克ち取り、千葉刑務所へのデモを貫徹した。五月一日にはメーデーに決起し、これを妨害せんとした動労カクマル「オルグ団」を千葉県下の労働者と共に粉砕した。

支援共闘会議をはじめとする支援部隊は、連日津田沼、千葉駅頭を埋め尽くし、シユープレヒコールと怒りのこぶしをたたきつけ、動労千葉と共にカクマルと対峙し抜

いた。

天フアの尖兵力クマル

この様な、反革命襲撃・暴力破壊オルグは動労カクマルの七九春闘に於ける革命的労働運動への真向からの敵対、カク乱の一環である。のみならず四月一八日動労全國戦術委員長会議に於いて、「貨物安定輸送宣言」の下、①交運、公労協統一闘争のスト拠点設定は各地方本部で自主的に設定②関東地協は動労千葉解体オルグを最優先にし、春闘ストは戦闘ダウントを動労カクマルはゴリ押しで承認モを貫徹した。五月一日にはメーデーに決起し、これを妨害せんとした動労カクマル「オルグ団」を千葉県下の労働者と共に粉砕した。

敵前逃亡し、一切を動労千葉解体へ収めせんとしたのだ！動労カクマルは真向からの公労協統一スト解体へとひた走ったのだ！

更に、国鉄当局に対し、「動労

千葉を組合として認めな」と許すまじき要求を出し、その確約を取るやストを中止したのだ！

まさに、動労カクマルは、大平壊オルグは動労カクマルの七九春闘に於ける革命的労働運動への真向からの敵対、カク乱の一環である。のみならず四月一八日動労全國戦術委員長会議に於いて、「貨物安定輸送宣言」の下、①交運、公労協統一闘争のスト拠点設定は各地方本部で自主的に設定②関東地協は動労千葉解体オルグを最優先にし、春闘ストは戦闘ダウントを動労カクマルはゴリ押しで承認モを貫徹した。五月一日にはメーデーに決起し、これを妨害せんとした動労カクマル「オルグ団」を千葉県下の労働者と共に粉砕した。

敵前逃亡し、一切を動労千葉解体へ収めせんとしたのだ！動労カクマルは真向からの公労協統一スト解体へとひた走ったのだ！

更に、国鉄当局に対し、「動労

つている。

五・二四東京集会・五・二七・二八現地闘争に支部防衛・闘争勝利の烽火をあげるべく大結集をかちとり、天皇制ファシズムのなし

くすし前段反革命に抗し、「天皇愛國の労動運動大連合」に抗し、革命的大衆行動、労働運動の大連合でもって本山闘争勝利へ前段階決戦勝利へ向けて前進しよう！

日帝の国家官僚独占資本主義一戦争とファシズムに向けた産業構造の再編に對決する反原発闘争の発展を！

アメリカ・スリーマイル島2号炉の原発事故は、「原発は安全」という推進派のキャンペーンを完全に打ち碎く炉心溶融と放射能拡散という事態に至つた。にもかかわらずブルジョアジーは「商業炉では死者は出でていない」（ショーレンジャー米エネルギー長官）や全委員長などと露骨な居直りを開始した。これに勢いづけられて、加圧水型発電炉を使用している大飯一号機は一時は停止の決定を示している。科学技術省では前年度比二五・二%と著しく

伸びており、核燃料サイクルの確立に関する予算も増大した。更には、土光経団連会長が「エネルギー立地と水産行政との調整について積極的に取り組む」ことを大平に強く要請したことを受け、三八九億円にのぼる電源立地促進対策交付金や、電源立地同意獲得対策関係予算一〇億円が「漁民対策」として計上されている。

このきわめて危険な原発をなも必死で増設しようとするブルジョアジーの意図は何か。第一に、「石油危機」を契機とした「エネルギー転換」が、構造的不況の突破口たる産業構造の再編の中で軸となっていること。つまり大合理化一労働者人民への犠牲転嫁を一

闘争スケジュール

5・20 三里塚現地闘争

5・21 本山闘争支援一三の輪富士銀闘争
5・23 狹山闘争（明治公園一時）
5・28 全金本山全国闘争仙台現地

79春闘

山谷春闘勝利！

1979年5月15日 第39号

79春闘が、五連敗で終った。

この敗北の主要な原因は、総評・民同の資本主義体制防衛を基調とした／＼産別自決／＼統一賃金要求基準をださない／＼へストなし春闘策動をやる／＼などの賃闘／＼反合闘争からの逃亡・日和見主義による、労働者間の競争・対立の拡大・差別・分断の助長するという方針の中にこそある。

79統一地方選の敗北、富塚の国鉄4組合統合論、全電通の春闘からの脱落逃亡、全通の越年一物溜闘への大量処分攻撃とそれへの屈服カクマルや全金民同を使つた勤労千葉、本山への組織破壊攻撃等々、これら一連の動向は総評・民同が、朝鮮／＼アジア侵略反革命戦争、天皇制ファシズム、賃金抑制、合理化攻勢の中で、革命的な労働運動・山谷・釜ヶ崎・中小未組織の労働者下層の戦いを切りすて、差別し踏み台にして、同盟・JC主導の下に、矛盾しつつも、それに屈服し、戦争とファシズムの社会的支柱たる、天皇と愛国の労働運動への一大飛躍を開始したことであらわしている。以上のような総評民同の79春闘の基本動向に対決し、79山谷春闘が戦かわれている。5月8日、山谷春闘は、山谷労働者の最低賃金十三万六千四十円の要求を要にして失敗、特別求人の増大、失対賃金の増額、福祉の充実などを要求して対都交渉を行つた。

最賃闘争を要にした山谷春闘の意義について若干説明する。

まず最賃闘争というのは、不況の長期化の中で拡大再生産され、一貫して生理的必要にも満たない飢餓線上に放置され・被差別大衆の大多数を含む労働者下層・産業予備軍の生命・生活と権利を守る戦いであり、日本

資本主義の、産業予備軍を沈め石とする差別・低賃金構造を打破し、同時に失対賃金、社会福祉関係費の一般的上昇をもたらすという実践的意義がある。

しかし現行の最賃制には、最賃法第8条「障害者」の除外とか、極端な低額におかれるなら、総評民同の賃闘／＼反合闘争からの逃亡、日和見主義、天ファへの屈服、労働者間の競争の拡大、差別・分断の助長に反対し、

被差別大衆、労働者下層、組織労働者など広範な労働者人民を団結させ、資本の賃金抑制／＼合理化攻撃に対決し、労働者人民の賃金上昇・生命生活防衛の戦いのために大きな力となる。

だから今79山谷春闘は、最賃闘争を要に、総評民同のこのよき動向に反対し、山谷労働者の、差別に反対し、生命生活と権利を守る

戦いと一体に、被差別大衆、労働者下層、組織労働者の広範な団結を獲得せんと戦かわれている。

このため山統労は、①省当局／＼全通民同一体となつた大量処分攻撃と戦う。勤労千葉、本山などの革命的労働運動と連合し、総評民同やカクマルを先兵とする組織破壊攻撃と戦う。②元号法制化、有事立法、一般消費税の導入／＼インフレ・大衆収奪の79年度予算に反対し、天皇制ファシズム、朝（一ア）侵略反革命（戦争）のあらゆる策動に反対する。③東部地域での未組織の中小零細の戦う労働者、争議団、部落解放同盟などの民主団体と団結し、反差別共闘や地域最賃共闘のために戦う。

④山谷労働者独自の労災／＼労働条件の改善、アブレ金問題、センター・公園の解放、九州土建闘争など経済的・社会的要求一とりわけ（戦争）のあらゆる策動に反対する。⑤5月の未から始まる特別求人の増額、賃金引き上げのために戦う。

そしてこのよき戦いと団結をしてこにして、広範な労働者人民がもつと大きな運動／＼賃金奴隸制の廃絶、天皇制ファシズムに反対し、社会主義を実現する革命的大衆行動として発展させるようにしなければならないのだ。

●資料 山統労機関紙 「寄せ場」五月一一日号より 「山谷は恐い」と山谷対策室長差別発言する！ 特別求人、延べ一〇一五〇人五月一一日より出る！ 賃金六二一六七円（手取り六〇〇〇〇円）

仲間たち／＼オレ達山統労と山の仲間は、

5月8日、支援の仲間と

共に大勢で東京都の山谷対策室・

民生局・労働経済局に山谷春闘の

要求を持つて交渉してきた。彼ら

はオレ達の鋭いスジの通つた正当な主張に対してタジタジし、まともに一切答えられなかつた。そのあげく時間切れで逃げようとしたのだ。

○仲間たち／＼オレ達の要求「全山

谷労働者に日額最低賃金13万6千40円を保障しろ」は根拠があり政府労働省も認めている。というの

は、失業保険法（自手帳）制度で

は印紙を一ヶ月平均14まい以上貼ると平均13日間はアブレ金がもらえる。つまり、14日のデスマーチ13日分のアブレ金の総額が山谷日雇い労働者の一ヶ月の最低生活費というわけだ。だから5月9日10円x14日十4100円x13日＝13万6千40円となる。又経済企画庁の調査でも東京で一人13万9千円の生活費が必要となつてゐるのだ。

ところが都の役人供はこれに答えておらず黙つてしまい、しかし遂にオレ達の追求の前にシブシブ「

算出についてはわかる」（山対室副室長）と合理性を認めざるをえなくなつた。

◎「アブレ金受給資格をゆるめよ」

という要求には「法律をかえなければどうしようもない」とぬかす。

オレ達が「実際には玉姫職安には仕事がないから一ヶ月14まいも印紙を貼れない。この現実を知つているか」と追求すると、「玉姫職安に仕事がなくともヤミ手配がある。そうすれば14まい印紙貼れるはずだ」と行政の責任を放り出し、手配師暴力団とグルになつてゐる。山対室長はドヤ代も知らないのだ。このことを調査した上で特別求人の数も決めて出すべきなのだ。山対室長は「山に行くのは恐い」（山対室長）とぬかしやがつた。ふざけんじやねえ！山谷労働者を差別するな！オレ達は心優しき労働者だ。特別受給資格の印紙数も、いつたい何を基準にして決めたんだ！役人の都合でオレ達の生命と生活を左右されたたまるか！

○仲間たち、地域の最低賃金を引きあげ確定させよう！

この闘いは、①日本の全ての労働者の低賃金を引きあげるのに役立つ。②日雇いなどの未組織の大層労働者の利益に直接役立ち、③社会保険費を引きあげさせるのに役立つ。④差別賃金／＼低賃金にあつい。⑤日本の労働者階級を引きつけ、大きく団結させしていくことができる、すばらし

て、労働や生活での苦しみの根源である賃金奴隸制廢絶に向けて闘

仲間たち／＼オレ達山統労と山の仲間は、

5月8日、支援の仲間と

共に大勢で東京都の山谷対策室・

民生局・労働経済局に山谷春闘の

要求を持つて交渉してきた。彼ら

はオレ達の鋭いスジの通つた正当な主張に対してタジタジし、まともに一切答えられなかつた。そのあげく時間切れで逃げようとしたのだ。

○仲間たち／＼オレ達の要求「全山

谷労働者に日額最低賃金13万6千40円を保障しろ」は根拠があり政

府労働省も認めている。というの

は、失業保険法（自手帳）制度で

は印紙を一ヶ月平均14まい以上貼ると平均13日間はアブレ金がも

らえる。つまり、14日のデスマーチ13日分のアブレ金の総額が山谷日雇い労働者の一ヶ月の最低生活費というわけだ。だから5月9日10円x14日十4100円x13日＝13万6千40円となる。又経済企画庁の調査でも東京で一人13万9千円の生活費が必要となつてゐるのだ。

ところが都の役人供はこれに答えておらず黙つてしまい、しかし遂にオレ達の追求の前にシブシブ「

算出についてはわかる」（山対室副室長）と合理性を認めざるをえなくなつた。

●資料 山統労機関紙 「寄せ場」五月一一日号より

特別求人（第一次）の数五月九

日に決まる。

150人だ。去年より1050名増えた。デスマーチもアップこれは、

その前日、山統労が東京都を追

った成果もある。しかしこれだけでは焼石に水。日本共産党の牛

耳る全日自労の指導部は「特別求

人數を減らし失対をなくすぞ」と

いう資本家行政のどう喝に屈し、

ケタオチ仕事の特別求人を「資本

家行政の言いなりになつてバクバ

ク働こう。」とお説教をたれてい

る。奴隸根性まるだしだ。

特別求人は手配師から行く仕事を組むことを促し、(5)日本の労働

活動できるだけの賃金を保障もでき

ないのなら、低賃金になどない行政が

の牛耳る全日自労の奴隸根性を吹

っとばし、チンタラ仕事をやろう

じゃないか。パクパクやつて体を

疲れさせる必要なぞない行政が

しかやる必要など毛当ない。「特

別求人は出せ！仕事はチンタラや

らう！」が合い言葉だ！

「天皇融和——大和報国会」の道か、
天皇制「アシズム」打倒——完全解放の道か。
狭山再審闘争勝利をもつて八十年代解放運動の飛躍を！

反帝反植反霸權闘争の前進の中で、第二次世界に前段階決戦の情勢が成熟しつつある今日、体制的危機にあぐ日本帝国主義は、最後の延命を賭けて第三次現帝化＝國家官僚独占資本主義化の道を歩んでいる。それは現下、天皇制ファシズム権力再編として展開されたり、この動向は、不可避に、朝鮮＝アジアへの侵略反革命戦争へと行き着くであろう。

労働者階級人民への犠牲の転嫁は、膨大な失業者群－相対的過剰人口の創出と、餓死線上、否それ以下への貯下げを生み、絶対的貧困化が進行している。大平政権は福田政権の反動路線を踏襲しつつ、それを「日本型福祉国家」「田園都市構想」とかのオブラートで包み込んでいるが、福祉切り捨て、公共料金軒並み値上げ、更には一般消費税導入と、徹底して勤労人民に犠牲を強要せんとしている。そして突出した闘いへの前段反革命は、一層強化されてゆくであろう。

現在狹山再審を巡る情勢は極めて緊迫した段階を迎えている。日帝・四谷は再審却下の時期を虎視眈々とうかがっており、二月末検事側はすでに意見書提出を終え、5月23日弁護側意見書提出を待てば、いつでも却下される条件が整う。もはや一片の幻想の余地はない。敵の腹づもりは明瞭である。獄中16年、血の苦闘の中で不屈の闘いを敢然と貫く石川一雄さんに何んとしても応え抜き、再審の門戸を開らせねばならない。

この却下策動粉碎・再審貫徹の闘いは、今や重大な内部矛盾故に、「天皇融和－大和報国会」への道か、それとも天皇制ファシズム爆碎－部落完全解放の道かを巡っての大きな分岐に逢着しつつある解放運動それ自身にとっても、又日本階級闘争総体にとっても、八十年代の帰すうを制する重要な位置を占めるものといえる。

第二次前段階決戦の戦略布陣、武装蜂起－臨時革命政府樹立に向けた正規の攻囲の構築に向け、狹山再審闘争－解放運動の発展を、先進的部落民－労働者階級人民は、自らの未来をかけて切り開らかねばならない。闘いは今から、なのだ。

おればよい方で、東京など地区指定すら行われず、全く手のつけられていない地域が多数残つており、多額の「残事業」があり、大半が劣悪な環境の下に放置されている。

全国平均と比較して十歳以上も低い平均寿命（大阪、三重）、全国平均の六～八倍の生活保護受給率にもきびしい生活実態が現われている。全国の部落の八割は農村（及び山漁村）にあるが、部落の平均耕地は三十アール（全国平均は八十アール）であり、地味も悪く、ほとんどが日雇い、出稼ぎ、行商で生活を支えている・漁村においても漁区からしめ出され、十分な資材もなく、素もぐりで生活を支えているところも少なくない。全国の部落戸数の約一割に当たる四万戸は中小零細企業だが、ほとんどが生業規模で、増え圧迫を受けている。そして大阪では成人中四人に一人は失業状態で、長崎県では実に五〇%以上の失業率を示している。高校進学率も全国平均九三・七%より七・一%も低く、頭打ちの前者と比べて低下傾向にある。こうした中で、「部落地名総鑑」に象徴されるように、部落差別は増加と悪質化の傾向を示している。

八 狹山闘争を軸とした解放運動の発展▽

る条件が整う。もはや一片の幻想の余地はない。敵の腹づもりは明瞭である。獄中16年、血の苦闘の中で不屈の闘いを敢然と貫く石川一雄さんに何んとしても応え抜き、再審の門戸を開らかせねばならない。

この却下策動粉碎・再審貫徹の闘いは、今や重大な内部矛盾故に、「天皇融和－大和報国会」への道か、それとも天皇制ファシズム爆碎一部落完全解放の道かを巡っての大きな分岐に逢着しつつある解放運動それ自身にとっても、又日本階級闘争総体にとつても、八十年代の帰すうを制する重要な位置を占めるものといえる。

第二次前段階決戦の戦略布陣、武装蜂起－臨時革命政府樹立に向けた正規の攻囲の構築に向け、狹山再審闘争－解放運動の発展を、先進的部落民－労働者階級人民は、自らの未来をかけて切り開らかねばならない。闘いは今から、なのだ。

→ 狹山闘争を軸に発展してきた解放運動

存「行政依存」の改良主義的傾向が横行し右翼融和主義・利権がはびこる傾向が大きな組織問題として浮上してきたことは指摘されて久しい。支配階級は六十年全日本同工会を結成せしめ、早くも融和攻撃をかけてきたが、「特措法」自身、環境改善にしばられたことにも、その意図は明らかであり、それは一定程度功を奏したといえる。

しかし六九年より本格的な取り組みが開始された狭山闘争が、かかる矛盾を克服する闘いの源動力として、七十年代解放運動の中軸として発展してきた。狭山差別事件は、国家

らない」と、右翼融和主義・暴力・利権分子供が唱和し、公然となだれをうつて「狹山ばなれ」を開始し、三大闘争をして「特措法」への解消をはじめるに至った。

だが、反差別・反権力・反侵略の「石川君の命は三百万部落民の命」「一人は万人のため、万人は一人のために」といわれる狹山思想を原点に大衆路線・共闘路線を「自力自闘」でおしそすめる闘いが、狹山闘争の中で着実に打ち鍛えられてきたのであり、この狹山闘争の発展の中からこそ、先進的幹部・青年・労働者を中心に、右翼融和主義・暴力・利権の整風が敢然と開始されてきたのである。七年三三回大会に於ける公然たる整風問題決議は、そうした闘いの成果である。

日帝は、狹山闘争虐殺をテコに、内外からの融和攻撃を強化しつつ、「特措法」そのものも打ち切らんとしてきたが、これに抗して強化、延長の闘いが昨年展開され、「三年延長」と三項目付帯決議がかちとられた。部落大衆の生活の最底限の防衛のためにも、「残事業」の三年内完全消化と、三項目付帯決議完全実施を行なわしめ、「三年打ち切り決議」（自民党）を粉碎し、環境改善中心を突破して、「法」の強化・改正、更には「部落解放基本法」制定実現をかちとつてゆく必要があるだろう。こうした闘いは、右翼融和主義

権力による公然たる差別犯罪であり、部落大衆の怒りは全国的に爆発し、文字通り権力闘争として発展してきたのである。七四年寺尾差別反動判決こそは、狹山闘争の全人民政治闘争としての発展に恐怖し、又この狹山闘争の圧殺なくしては解放同盟—解放運動の解体もなしえぬことを熟知していたが故の正面攻撃であり、七三年石油危機を経て高度成長の終焉が到来した局面に於いて、ゆらぎ始めたブルジョア独裁の再編—天皇制ファシズム攻撃の口火として、階級解体攻撃のための新たな段階での部落差別の強化・再編の宣言に他ならなかつた。以降なだれをうつて組織破壊攻撃、融和攻撃が開始される。社帝化の道をかけ走つていた日「共」は、六九年矢田教育差別事件を契機に「正常化連」をデッヂ上げ、「窓口一本化反対」「同和予算削減要求」の差別キャンペーんを大々的にはり、組織破壊策動をくり抜げてきたが、この寺尾差別反動判決が打ちおろされるや、呼応して八鹿高校差別事件を計画的に引き起こし、七五年「狹山逃亡宣言」を発つし、一挙に反動化を強め差別者集団へと純化していく。他方、七四年、大阪・浪速支部の闘いに象徴される山口組を始め暴力団の組織介入が公然化し、更には七五年以降、「第八」「第九」の「部落地名総鑑」に象徴される部落差別の増加が著しくなる。

この寺尾差別反動判決に引き続き、日帝は七七年「上告棄却」と天皇制ファシズムの前段反革命の正面攻撃を集中し、そして現在、それは再審却下策動として現出している。「上告棄却」以降、「狹山は終つた」「金にな

暴力・利権の整風と一体に提出されねば、問題の真の解決に向つて進行し得ない。それ故、狹山再審闘争の前進は不可欠である。

差別者集団曰「共」を批判・粉碎し、天皇制ファシズムの左足を斬て！

△部落差別の社会的基礎△

天皇制ファシズム権力再編、国家官僚独占資本主義化の進行と共に、部落差別と絶対的貧困が増大している現実をしっかりと見る必要がある。部落差別の本質を封建遺制に求めることは全く根拠がない。それは資本主義生産関係そのもののうちにある。

資本主義は資本家による生産手段の私的占有を基礎に、賃金奴隸制を横杆とした剩余価値の搾取を推進的動機・規定的目的とする商品経済社会であり、資本家間の無政府的競争戦という外的強制の激化の中で、これに打ちかち生き残るため、資本家は不斷に技術革新を行い、剩余労働時間を絶対的相対的に延長し、あるいは労働強化を図り、專制支配を強化し、こうして資本の蓄積を行う。資本の増大が産業偏重の増大を生み、日増に労働者間の競争を拡大する。

この産業予備軍の存在こそ、資本にとっては安全弁であり、これが労働者間の競争を一層激烈にし、その生活全体を不安定なものに個定化する。資本家はこれを最大限意識的に利用し、重層的構造的な差別分断を創り出していく。ここにこそあらゆる差別の社会的基礎があり、そして労働者が差別を受けいれでゆく根拠がある。

こうして差別故に部落大衆は、その大半が失業・半失業の状態におとしみられ、雇用あらゆるガラクタ、反動的諸イデオロギー一切を身にまとい登場してくるが故に、部落差別を始め、汎ゆる社会的差別の強化を持つて労働を解体し、搾取と収奪の過程を極限まで悲惨なものにする。

△「国民的融合論」を批判せよ！△

日本社会主義革命の観点から、部落完全解放を展望するには、差別反革命集団に転落した社帝日「共」の「国民的融合論」を完全に批判しておく必要がある。

七四年寺尾差別反動判決に呼応して八鹿高校差別事件を行い決定的な反動化に転じた日「共」は七五年三月「朝田理論の総決算」を打ち出し、同年九月「国民融合をめざす部落問題全国会議」を結成し、同和会との公然たるゆきをおしすすめんとしたが、これが破綻して展開され、「前衛」における北原泰作・樺利夫対談を経て、76年神の「国民的融合論の展開」にいたる、いわゆる「国民的融合論」である。

それは「現在の部落差別は身分差別の殘りもの」（「国民的融合論の展開」）とする單純封建遺制論に立ち、そこから部落解放とは「市民的自由をかちること」（同）であり、「一般民主主義的な課題」（同）であるとされ、従つて資本主義体制の下でも解決可能な課題であるという結論が導き出されてくる。

これを基礎に戦後は「封建的身分差別の物質的基礎が解消」されており、従つて「差別はしだいに解消されつつある」、だから「封建時代の身分にかかわりなく、日本の労働者人民として結合・融合していくべき」だの「ねた子を起こすな」論を吹聴してまわるわけである。

日「共」は単に解消主義、左翼融和主義というしろものではなく、天皇制ファシズムの差別反革命攻撃に加担し、差別糾弾闘争（糾弾權）を虐殺し、差別・分裂・排外主義の先兵として、部落解放運動の融和主義的変質と労働者階級との団結破壊の張本人になりつつある。

日「共」が「国民的融合論」に何んとか権威と正統性を付与せんと持ち出したのが、戦前、一九三五年全水十三回大会に於いて提起された「人民的融合」論だが、しかしそれは、「半封建的身分制による差別観念の排除、即ち被压迫部落大衆の絶対的な解放は、現代社会組織の改革なしには絶対あり得ない」と明確に述べており、資本主義の下で解放が可能だとする立場とは根本的に相容れない。「继承・発展」どころか十三回大会の方針に貫かれた身分差別と貧困の統一的把握、封建的身分差別と資本主義生産関係との関係の統一的理解を、一切清算し、御都合主義的に引用しているにすぎず、封建的身分差別と資本主義との連関を二元論的に分離し、その上で前者に差別の本質を求めるというナンセンスを行つてゐるのだ。これが「国民的融合論」の誤りの理論上の根源である。

△「天皇融和一大和報国会」への道か、天皇制ファシズム爆碎・完全解放の道か！△

天皇制ファシズムは、日「共」をはじめ、社会帝国主義を左足として、燃え上るプロレタリア独裁・社会主義革命の炎を前段反革命を持っておしつぶし、闘う隊列内部に差別・分断・排外主義をおり、団結を解体せんとする。それ故、部落差別は強化され、強権的弾圧と融和攻撃の一切をかけて解放同盟一解放運動の解体・大和報国会化をなさんとしている。それは狹山再審闘争の虐殺として、右翼融和主義・暴力・利権の育成として、頭在化している。

かかる天皇制ファシズムの攻撃に対し、部落解放運動の飛躍と發展をかちとる為には、第一に、右翼融和主義・暴力・利権の徹底した整風であり、第二に、圧倒的多数である部落民下層（下層労働者・貧農・零細漁民）を組織の中心にすえ、部落民下層の生活を擁護しなければならない。そして第三に、こうしたことを行う上での中軸に狹山再審闘争をしき、反差別・反権力・反侵略の大衆路線・地名總鑑・糾弾を始めとする汎ゆる差別糾弾闘争をおしすめてゆかねばならない。

ここで決つして軽視してはならないのは、部落民のとりわけ下層の生活の擁護である。現在の政治経済情勢の下では、彼らの生活破壊が真っ先に進行する。それ故生活擁護闘争は重点をおいて闘わねばならない。政治闘争を重視するあまり、経済闘争を軽視すれば、それは必ず破綻する。問題は、経済闘争の闘い方であり、日和見主義の手に委ねないで、如何に革命的に闘うかである。「労働者がその経済闘争を通じてすでに作り出した個々の力の統一は、その搾取者の政治的強力に対するその闘争の横杆としてまた役だつ」（マルクス）。差別糾弾と生活擁護の闘いを結合し、革命的に経済闘争を組織し抜けば、その力は必ず狹山闘争の横杆として逆作用を示すであろう。更にこれを、労働者階級との共同闘争、反差別共同闘争としておし括げる必要があるであろう。その際、低賃金構造打破の闘いとして、最賃制確立の闘いは重要な意義を持つものであろう。とりわけ、最賃制第八条の徹廃要求と共に闘うことが大きな意義を持つ。

一部の先進的労働者の献身的積極的な解放運動への取り組みにもかかわらず、労働者階級総体はいまだ十分な取り組みがなし得ていない現状を痛苦に取らえかえす中で、我々はぜひとも差別と闘つて団結し、差別と闘つて低賃金を引きあげ、生活と権利を守る闘いを組織する必要がある。「こえ」を筆頭とする右翼融和主義が差別糾弾と生活擁護を二元化して前者を解消し、後者を行政依存的改良主義的に展開し、その延長に部落解放を夢想しこうして狹山闘争を清算し、圧力闘争に解消し、「特措法」に一面化してきたことを反面教師にするなら、経済闘争の領域に於ける革命的な闘いを、共同闘争として推進する必要がある。

一方でかかる闘いを開拓しつつ、しかし全効力を注がねばならないのは狹山再審闘争である。「権力を打倒しても」奪還しなければならないのであり、それ故天皇制ファシズムとの対決抜きには、その打倒なしには完全解放の道はない。

我々は、更に狹山共同闘争を推し進めねばならぬ、「こえ」・協会ブロックの右翼融和主義を批判し、総評民同を批判し、革命的大衆行動と解放運動との結合を推し進める中でその内実を深化しなければならない。

そして狹山再審闘争と、三里塚闘争との一層の結合をかちとり、全国全人民政治闘争として更なる發展を戦取しなければならない。

△差別・無実・糾弾・奪還△の原則を再度打ち固め、広範な労働者階級人民の決起をかちとり、必ずや石川さんを戦列に奪い返さねばならない。朝鮮人アジア侵略反革命戦争を阻止し、汎ゆる差別を許さず、韓国人民の反フアンショ民主化・人民民主主義革命に連帯し、天皇制ファシズム爆碎の死闘に勝利し抜こう。

前号（38号）の訂正

一頁本文中二八行
誤II朝鮮人民民主主義革命
正II韓国人民民主主義革命
一頁本文中三二行
誤II反帝反社帝
三頁元号法制化阻止の文中
誤II軍人勅諭
正II軍人勅諭